



「ピックポケット 2019」 2019 162.5×131×7cm
綿布、ロープ、木、アクリル絵の具

長 重之「ピックポケット」

2019.4.7 – 2019.6.9

この度、rin art association では 3 フロアを使い長重之個展「ピックポケット」を開催致します。
本展では初期から 2019 年の新作のピックポケットシリーズに焦点を当て展示いたします。
このピックポケットは世界の全体像を浮かび上がらせる試みとして、1960 年代より油彩、綿布、透明ビニール、銘仙、
など様々な素材で制作され現在も続いております。「ポケットというのは不思議で、人間にとっての何かだと思っ
ている。」と語る長。50 年余り続く壮大なシリーズを是非ご高覧ください。

長 重之(ちょう しげゆき)

1935 年東京都生まれ。

1944 年父の故郷である足利に移り、1960 年代から、地元のガス会社や病院に勤務しながら制作を始める。
以来、「日常の深淵」、「物質の飽和」、「意識下の精神」など独自の洞察によって導かれた「境界と領域」、「物質の反乱」、
「生体と彼方」といった明確なコンセプトに貫かれた作品を創作し、1968 年には、カンヴァス地に巨大なポケット
を縫い付けた「ピックポケット 68」、次いで 1978 年に「視床 1」という極めてユニークな作品をシリーズで発表。
この二つのシリーズは、イベント「ロードワーク」やパフォーマンス「アタッチメント」という身体そのものの行
為を伴ったアクション・シリーズと並行して展開され、今日の作品に繋がりその後も「平・面・躰」、「リバーベッド」
など一貫性のある作品を発表しつづけている。また、1960 年代後半よりハンディキャップのある人々の作品展を
企画、コラボレーション作品とするなどの活動もある。

主な展示に、2018 年「長重之 渡良瀬川、福猿橋の土手」足利市美術館 (栃木)、2013 年「CHO SHIGEYUKI 展」ガトー
フェスタ ハラダ本社ギャラリー (群馬)、2012 年「原野 1973」スペース 23°C (東京)、「館林ジャンクション
中央関東の現代美術」群馬県立館林美術館 (群馬)、2008 年「長重之展<時空のパスセージ> 足利の来し方世
界の行く末」栃木県立美術館 (栃木)、1997 年「さまざまな眼 83 長重之展<平・面・体>」かわさき IBM 市民ギャ
ラリー(神奈川)、1988-92 年「白州・夏・フェスティバル」に参加、1973 年「点展」汲沢団地内(神奈川)、1968 年「ピッ
クポケット '68」村松画廊 (東京) 他。

オープニングレセプション 04.07 18:00 - 20:00

[水-日] 11:00 - 19:00 [月-火] 休廊

G.W の祝日も開廊いたします。

contact

rin art association

370-0044 群馬県高崎市岩押町 5-24

t: 0273-87-0195 e: contact@rinartassociation w: <http://rinartassociation.com>